

ご挨拶

同門会会長 邊見達彦

自然の猛威は地震、豪雨、火山の噴火の被害などで実感していますが今年はさらにISによるパリでのテロなど人類による避けねばならない事件が頻発しています。世界の人々とともに世界平和を願わずにはおられません。

このような不安定な世相ではありますが同門会の諸先生方は御健勝のこととお喜び申し上げます。また日頃は同門会活動に何かとご協力いただきありがとうございます。

西良教授をはじめ教室の先生方にはお忙しい中、学術講演会、研修会を始め同門会会員に対し研修、研鑽の機会を与えていただき誠にありがとうございます。

平成25年11月1日に第五代整形外科学講座教授として西良浩一先生をお迎えしてすでに3年目を迎えています。私も会長就任後2年を経過しました。西良教授を迎えてその後の教室発展のスピードは目覚ましく、平成26年7月1日には脊椎関節機能再建外科学という新講座を開設され新たに酒井准教授と後東講師、高田講師が昇進、就任されました。今は福田准教授も加わっています。平成27年4月にはクリニカル アナトミー 教育研究センター(CAL)の准教授として東野先生が就任されました。本家の運動機能外科学教室の松浦准教授、西庄講師、病院整形外科鈴江講師、浜田講師を合わせると多くの准教授、講師の席が用意されていることとなります。

また、今後の学会開催に関しても平成28年10月22-23日アスティー徳島で開催予定の中四国整形外科学会に続き平成30年の日本整形外科学会スポーツ医学学術集会、その後にはJASMISS（日本低侵襲脊椎外科学会）学術総会が予想されます。平成34年頃には徳島大学整形外科学教室開講70周年記念祝賀会が考えられますが、中部整形外科災害外科学会もそのころの開催が予想されています。そのほかにも、今後学会開催の光栄な機会がいただけるのであれば教室、同門会一丸となって全力を挙げてまい進すべきと考えております。その際には同門会員の皆様の格別なご協力をお願い申し上げます。

現在、同門会員は348名です。残念ながら本年には岩城 孝先生、阪本謙一先生、堀部和良先生の3名の会員の訃報に接しました。ご冥福をお祈り致しますとともに、これまでの同門会活動への御協力に感謝申し上げます。

さて次に、同門会員の関心事項に関連病院の維持の問題があります。約10年前に初期臨床研修医制度が開始されて以来、徳島大学の卒業生の多くは県外に研修に出るようになりました。初期臨床研修を終えたのちも徳島大学の各教室の医局員として復帰されることは少なく徳島大学全体でも医局員不足とか関連病院でのスタッフ不足の問題は継続しております。私たち整形外科学教室でも関連病院のスタッフ派遣の要望に大学、同門会を含め十分応えることができず関連病院からの引き上げ、縮小、合併などが現実的な提案として医局から提示されるようになりました。H27.8.23の関連病院臨時医長会では各病院全てに医局からの選択肢を3つ提示されました。どの選択肢も医長にとっては選択困難でこれを提示せざるを得ない医局長も断腸の思いだったと想像します。今後の整形外科専門医資格獲得のための研修、維持のための臨床を含めて関連病院再編や再検討の時期に来ているのかもしれませんが、ただ、期待は今春からしばらく、地域卒の卒業生が毎年最大17名誕生の可能性のあることです。しかし、これとても整形外科入局を選択していただけるか先行き不確定な面があり、あまり大きな期待はできません。魅力的な教室づくりをしても若手医師の定着には地域的な利便性の要素が大きなハンディーになっているようにも思えます。

同門会の話から離れますが医療予算は高齢者患者の増加の中でありながら、伸びはそれほどでなく、少ない予算を多くの国民が分け合うという苦しい状況のようです。費用がかかる高度医療や先進医療も進歩する中で我々には効率的な医療が求められていると考えます。特に、整形外科医にはロコモティブ症候群の国民への啓蒙とその治療が大きな課題としてあります。このような時代ですが、それぞれの置かれている立場で毎日を堅実にこなしていけば明るい未来はきっと開けていくと信じています。

最後になりましたが、向寒の折、お体には十分に気をつけられて楽しい毎日をお送りください。同門会員の皆様のますますの御健勝とご多幸を祈念しております。